

(様式第3号)

政務活動報告書

会派名 (公明党鳥取市議団)

活動事項	行政視察
活動年月日	令和7年5月19日(月)～令和7年5月21日(水)
場所	福岡県みやま市、佐賀県佐賀市、長崎県長崎市
活動の相手	同上
参加議員名	石田憲太郎、平野真理子、浅野博文、谷口明子、水口誠
目的・内容 ・結果等	<視察項目> ○ワンヘルス推進について(福岡県みやま市) ○佐賀駅前周辺整備について(佐賀県佐賀市) ○あぐりドームについて(長崎県長崎市) <所見等>・・・別紙
関連する 支出伝票番号	5, 6, 7, 8, 9, 10

(様式2)

別紙

視 察 報 告 書 (委員用)

令和 7 年 5 月 30 日

鳥取市議会議長 星見 健蔵 様

鳥取市議会 公明党市議団

団長 石田憲太郎 (印)

令和 7 年 5 月 19 日から令和 7 年 5 月 21 日まで鳥取市議会文教経済委員会の視察(調査)に参加したので、その結果を下記のとおり報告します。

記

所見等：

■福岡県 みやま市

1. ワンヘルス推進について

ワンヘルスとは、「人と動物の健康及び、環境の健全性を一体的に守る考え方」としている。2016 年に北九州市で「第 2 回世界獣医師会－世界医師会 “OneHealth” に関する国際会議」が開催され、福岡宣言が採択されたことから福岡県のワンヘルスの取り組みが加速した。2020 年に「福岡県ワンヘルス推進基本条例」が可決。従来から環境政策に積極的に取り組んできたみやま市は、2021 年にワンヘルス推進宣言を表明した。

主な取り組みとして、

①環境保護

エネルギーと資源循環のまちづくりの推進

②基盤づくり

市民・事業者への普及啓発

③ワンヘルス教育の実践

市内全小中学校でのワンヘルス教育の実践 を行う。

現在、みやま市内に福岡県のワンヘルスの取り組みの拠点となる「ワンヘルスセンター」を令和 9 年供用開始予定で整備を進めている。

特に、ワンヘルス教育については人と動物の健康と環境の関りについて関心と理解を深める体験的活動を重視しながら、人や動物の健康と環境を守

るために働きかける能力を育成することを目標としており、全国学力調査の結果をみると、小中学校共に「人の役に立つ人間になりたい」「地域や社会をよくするために何かしてみたい」等が高くなっており、その効果を感じた。ただ、ワンヘルスに対する市民の理解がまだまだ進んでいないことやワンヘルスの理念を市政・市民の行動の上にどう具現化してくのかが課題ととあるが、道徳的視点で人と環境を捉える教育は今、非常に求められているものだと感じた。

■佐賀県 佐賀市

1. 佐賀駅前周辺整備について

佐賀市の駅周辺整備事業の背景は、令和6年開催の国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会に向けメインアリーナを中心とした拠点「SAGA サンライズパーク」整備（駅北）を起爆剤として、集客力・交流人口を拡大。また、中央大通り（駅南）を緊急避難道路に指定し、沿道建築物の解体等を行い通りの再生を進めた。

駅バスセンターの乗り場を再編し統一感のあるデザインに変更。以前はバス会社別の乗り場であったものを行先方面別の乗り場に変更。運行情報や運賃検索もデジタル化し利便性をアップ。駅前広場は、車中心から人中心とし、半分の面積をイベント広場に変更し大屋根も整備。指定管理として管理運用している。

特に、駅からサンライズパークまでの1km余りの市道をサンライズストリートと称し、要所の3カ所に交流施設を設置、また、歩行者の休憩場所「ポケットパーク」を設け、イベント時はキッチンカーの出店もある。トイレについては、沿線の6企業の協力を仰ぎ「トイレシェアリングサービス」を実施。事業の推進にあたっては市民に徹底して事業概要を伝え、多くの意見を聞きながら進めてきた。

本市も駅周辺再整備を軸としたまちづくりを進めている。佐賀市の整備がそのまま取り組めるわけではないが、佐賀市も駅の南北軸を強化し賑わいを生み出すとする方向性は似ている。本市では駅と鳥取城跡を核とした2軸の活性化に共通するものがあり、歩くことが苦にならない仕掛けづくりは参考とすべき事業と感じた。

■長崎県 長崎市

1. あぐりドームについて

あぐりドームのある長崎あぐりの丘は、平成 10 年に農業型体験施設として開園したが 3 年後に管理会社が解散。その後市の維持管理となり平成 21 年に再整備計画を策定、市民協働の取り組みを開始。平成 30 年に施設を「遊びを通して子供の成長をみんなで育む施設」へ方向性を転換し、現在の全天候型の子ども遊戯施設を整備し現在に至っている。

入園料、駐車場料金は無料、入館料として子ども（小学生まで）250 円、保護者等 100 円としており、令和 4 年の全天候型施設開設から今日までの 29 か月で想定を上回る 30 万人の来館者があった。

施設は、事前ネット予約制にし、一回 90 分の入れ替え制とすることで、ちょうどいい人数で遊べるとの意見がある。遊具は小学生のみの利用とし、大人（保護者）の利用は禁止で見守りに特化している。

全天候型の大型遊戯施設は本市としても整備したい施設である。雨天時の子どもの遊び場需要は望まれていると思うし、昨年行われたこども未来会議でも同様の施設を望む意見があったと記憶している。

視 察 報 告 書

令和7年6月4日

鳥取市議会議長 星見 健蔵 様

公明党鳥取市議団

平野 真理子

令和7年5月19日から令和7年5月21日まで鳥取市議会公明党鳥取市議団の
会派視察（調査）に参加したので、その結果を下記のとおり報告します。

記

所見等：

ワンヘルス推進について（みやま市議会）

- ・みやま市は2007年1月に3町合併により誕生し、2025年3月末で現在人口が34,026人、高齢化率が39.8%。ワンヘルスという、人、動物、そしてそれを取り巻く環境の健康も一つのものと捉え、関係者が協力して解決に向けて取り組まれている状況をお聞きした。
- ・福岡県が国の方針を受けワンヘルスの取り組みを加速させたことから2027年みやま市に全国初のワンヘルスセンターが整備された。みやま市では環境政策において、人の健康と環境の保全に関する調査や研究と動物の保護衛生を一元的に行っている。
- ・2021年9月市議会による「ワンヘルスの推進に関する決議」と市では全国初の「ワンヘルス宣言」を表明された。
- ・みやま市の取組で強く感じたのは、ワンヘルスの考え方が市民の年齢に関係なく広く大きく浸透していることだった。「わたしのワンヘルス」は、「ありがとうの心の地産地消」「睡眠から健康へ」「フードロスをなくす」「動物たちとの共生をめざして」など市民や事業者の方が書いておられたが、市民に分かりやすく普及・啓発を推進されていた。
- ・教育委員会の取組ではワンヘルス教育推進プロジェクトに取り組まれている。最初はやることが増えて忙しくなることへの不安の声が多かったが、始めてみると今まで自分たちがしていたことが一つのかたちになっていたことに気づき、今では人と動物の健康と環境のかかわりについて関心や理解を深めることにつながってきた。
- ・市全体のことを1人1人に定着することの好事例を学ばせていただいた。

佐賀駅前周辺整備について（佐賀市議会）

- ・佐賀市は 2005 年 1 市 3 町 1 村が合併し、更に 2007 年 3 町が加わり、2020 年人口 233,466 人、431.81 k m²となった。
- ・市の方向性として、佐賀駅を中心に街の南北軸を強化し、賑わいの波及効果を生み出すとして 2017 年構想策定し、2019 年基本計画を策定し進めてこられた。
- ・駅北口の整備では、駅前の駐車場、タクシー乗り場を再整備し、その出入口を一元化し、交差点のスクランブル化や待ち合わせ等に使えるスペースが広がっていた。
- ・南口にはイベントなどで使用できる広いスペースや休憩できるベンチが多くあり、大根屋が設置され、雨天でも座れることがとても良いと思った。車中心から人が中心の広場になり南口の利用の形態が広がってきた。
- ・市道三溝線の整備では、道路改良、無電柱化、歩道の高質化を行い歩道がとても広がった。交流施設では、既存建物を取得、回収して施設を作り、管理・運営はカフェコーナー入居者が行っている。
- ・佐賀駅下古賀線は県と市で再整備し歩道空間を広げた。それによりゆっくり過ごせるベンチやオープンイベントができるようになった。
- ・旧西友駐車場の広い敷地を民間開発の誘導をしている。
- ・様々な整備の取り組みを伺い、賑わいづくりや利便性など、本市にとって良い参考になると感じた。日頃、本市でも市民の方から、駅周辺にベンチの設置を求める声を多く聞くので、是非、参考にしていきたいと思った。

あぐりドームについて（長崎市・現地視察）

- ・長崎市あぐりの丘にオープンした、雨の日や寒い日でも遊べる全天候型の子ども遊戯施設で、ドーム内の混雑を避け、子どもの安全かつ快適な遊びのスペース確保のため、利用時間ごとの予約優先制による完全入れ替えになっている。付き添いの大人は見守るだけで一緒に遊具を利用できない。各回 90 分、最大利用人数 250 人までとなっていた。現地で見ると、確かに素晴らしい環境と遊具を楽しむために最適なルールを作られていると感じた。
- ・インクルーシブな遊具や施設の環境に十分配慮されていた。授乳室を男性も利用できるよう椅子が置かれていた。
- ・今後、本市で全天候型の施設を検討するときには、必ず、あぐりドームを視察することを勧めたいと思った。

(様式5)

視 察 報 告 書

令和7年5月22日

鳥取市議会議長 星見 健蔵 様

鳥取市議会 公明党鳥取市議団

浅 野 博 文 ㊞

令和7年5月19日～5月21日まで鳥取市議会公明党市議団の視察（調査）に参加したので、その結果を下記のとおり報告します。

記

所見等：

5/19（月）1日目：福岡県みやま市 「ワンヘルス推進について」

〇市議会の田中裕樹参与からご挨拶をいただいた後、(1)「みやま市のワンヘルスの取り組みについて」を、企画部総合政策課ワンヘルス総合推進室 山下昭文室長より、また(2)「ワンヘルス教育推進について」を、教育委員会 姉川左希子指導室長より、それぞれ資料に基づいて説明を受けた。

(1)「みやま市のワンヘルスの取り組みについて」

- ・①なぜ、みやま市が取り組むのか？→福岡県の動きとこれまでのみやま市の施策、②＃みやまワンヘルス（具体的取り組み）→市民、事業者への普及啓発やこれまでの取り組み、③わたしのワンヘルス→市民、事業者、行政一体の取り組みへ 以上3項目を具体的に学ぶ。
 - ・2020年 全国初の「福岡県ワンヘルス推進基本条例」が可決、翌年施行
 - ・2021年 みやま市が全国初の「ワンヘルス推進宣言」を表明
 - ・2023年 ワンヘルス総合推進室を設立
 - ・2027年 福岡県がみやま市に「ワンヘルスセンター」を設置
- ※みやま市ではワンヘルス総合推進室を設置するなど全庁を挙げて取り組んでいて、福岡県内でも一番進んでおり、素晴らしいと感じた。

(2)「ワンヘルス教育推進について」

- ・ワンヘルス教育の目標は『人と動物の健康と環境のかかわりについて関心と理解を深める体験的活動を重視しながら、人（自分）や動物の健康と環境を守るために働きかける能力を育成する』こと。
- ・令和4年度から「ワンヘルス教育推進プロジェクト」を開始。まずは校長研修会を通じて各学校への周知に取り組む。今まで行ってきた学習内容をつないだり、見直したり、組み立てながら、ワンヘルス実践の基本方針（6つの課題への取り組み）をもとに全体計画を立てた。モデル校をつくり実践。

- ・現在は全ての学校、全ての学年で具体的実践が行われ、日常的な実践につながっている。

※印象に残ったのは、学校全職員がそれぞれの役割をもってワンヘルス教育を推進していること、そして子どもたちが、人の役に立ちたいとか地域や社会をよくするために何かしたいなどの自己決定に対する効果が見られていること。とても素晴らしいと感じた。

◎ (1) (2) の事前質問を含めて、とても有意義な質疑となった。

5/20 (火) 2 日目：佐賀市 「佐賀駅前周辺整備について」

○議会事務局議会総務課 北村康祐参事のあいさつ、経済部中心市街地振興室 西洋徳室長のあいさつの後、経済部経済政策課経営支援係 御厨亮介様から、事前質問の内容も含めながら、資料にそって詳しい説明を受けた。

- ・平成29年3月佐賀駅周辺整備構想を策定、平成31年3月佐賀駅周辺整備基本計画を策定する。
- ・佐賀駅周辺整備事業として主な整備事業については、①駅前広場（北口、南口）、②市道三溝線歩道空間高質化等、③交流施設、ポケットパーク、交流スペース整備、④佐賀文化会館のペDESTリアンデッキ整備等、⑤佐賀駅周辺駐輪場の整備が行われた。今後も令和9年度まで整備が続けられる。

※印象に残ったのは、以下の点です。

- ①駅前交流広場は、車中心から人が中心の広場にするため、イベント等による賑わいを生み出す空間として整備されていること。
- ②愛称サンライズストリートの市道三溝線では、片側2車線だったものを右折レーンを残し1車線とし、歩道を拡幅したり、電線地中化など思い切った整備が行われていること。
- ③サンライズストリートでは高校生など近隣地域の協力があり、サンライズボックス、ポケットパーク、交流スペース、トイレシェアリングサービスなどの様々な取り組みが考えられていて、とても素晴らしいと感じた。
- ④佐賀駅近くの佐賀バスセンターも、令和4年10月にリニューアル。バス会社別の乗り場を行先方面別の乗り場に再編するとともに、デジタルサイネージを活用して運行情報を知らせるなどの整備がされたこと。

◎説明を受けた後、嵯峨駅前の現地に移動し、質疑できたのでとても良かった。

5/21 (水) 3 日目：長崎市 「あぐりドームについて」

○あぐりの丘指定管理者 グロウスピア共同事業体 小佐々洋施設長のあいさつと合わせて、あぐりの丘について、特にあぐりドームについて資料にそって説明を頂いた。

- ・令和元年度 全天候型子ども遊戯施設の基本計画策定
- 令和2年度 全天候型子ども遊戯施設の実施設計を実施
- 令和3年度 全天候型子ども遊戯施設の建設に着手
- 長崎市あぐりの丘条例制定（令和4年度施行）

令和4年度 全天候型子ども遊戯施設完成

あぐりの丘への指定管理者制度の導入

- ・こども元気プロジェクト（取り組み期間令和元年8月～令和5年3月）
このプロジェクトの概要：子どもの遊び場の整備に対する市民のニーズは高く、特に、天候に左右されない屋内の遊び場を求める声は高い状況にあり、子どもたちが遊びながら成長できる場所や、子どもの遊び場と子育てに関する相談ができる場所を作ること、子育てしやすい環境の充実強化を図る。
主な取り組み：①あぐりの丘に子どもが遊びながら成長できる全天候型の子ども遊戯施設を整備する。
- ・あぐりドーム内の各種遊具：クライミングウォール、大型ネット遊具、ふわふわドーム、ボルダリングウォール、ボールプール、インクルーシブブランコ、複合遊具A、複合遊具B

※印象に残ったのは、次の点です。

- ①長崎駅から車で30分程度かかり、かなり山の上に立地しているが、今まで長崎市にはこのような施設が無かったこともあり、あぐりドーム来館者数は約29か月で30万人突破している。目標以上の来館者数となっていること。
- ②指定管理者制度で自然に親しむ企画等を年間54回以上開催する取り組みとなっていて、味噌作り、ジャガイモの収穫、フェルト、陶芸、読み聞かせ、ピアノやハーブの演奏など年間を通じて開催されていること。この取り組みには、市民団体も協働参加していること。
- ③あぐりドームの遊戯施設を利用するにあたっては、詳細な注意事項が決められていて、こどもの安全を最優先に考えられていること。

◎実際に館内を見学して、改めて素晴らしい遊具と、トイレ等こどもに配慮した設備が整っていると感じた。

以上

視 察 報 告 書（委員用）

令和 7 年 5 月 3 1 日

鳥取市議会議長 星見 健蔵 様

鳥取市議会公明党市議団

谷口 明子

令和 7 年 5 月 1 9 日から令和 7 年 5 月 2 1 日まで鳥取市議会公明党市議団の視察（調査）に参加したので、その結果を下記のとおり報告します。

記

所見等：

<福岡県みやま市議会>

○ワンヘルス推進について

- ・「ワンヘルス」が大変広範囲な事業で、また理想を追求した事業あり、それを推進されているところに大変感銘を受けました。
- ・福岡県がワンヘルス事業を推進されていること、また、みやま市でワンヘルス事業を始められようとした時に、近隣の筑後市に世界医師会の会長、みやま市に獣医師会会長など重要な方がおられたという環境、そして、保健医療経営大学が 1 0 年ほどで閉校になり、跡地活用が可能であったことなど、様々な好条件が重なりワンヘルス事業が開始され、推進されていて素晴らしいと感じました。本市で同様のことができればと思いますが、ハードルが高すぎると感じました。
- ・ワンヘルス教育について詳しく説明していただきました。不登校に対策に繋がり、子どもたちのみならず、保護者、地域の方々にも広がっているワンヘルス教育で、内容が素晴らしいと感じました。少しでも、参考にするべく、今後、探っていききたいと思いました。

<佐賀市議会>

○佐賀駅前周辺整備について

- ・佐賀駅の北口、南口の整備が「『車』中心から『人』中心の広場へ」というコンセプトで、動線を考え、機能が充実したものとなっており、鳥取駅にも参考になればとは思いました。
- ・まちなかウォーカブル区域の整備が、「人」を中心に据え考えられており、鳥取駅北口から、県庁、鳥取城跡までの参考になればとは思いました。しかし、本市では、道路幅が、狭いので困難だとは思います。
- ・佐賀市で、プロスポーツチームが活躍しているのが、街の活性化、街の整備に大いに役立っているのが、羨ましく思いました。

<長崎市議会>

○現地視察：あぐりドーム

- ・当日は雨天となり、あぐりドームは、全天候型子ども遊戯施設でありましたので雨天でも良かったのですが、周辺が「あぐりの丘」として整備されている場所であったので、全体を見学できたら良かったと思いました。
- ・大変広く、のびのびできる場所で、様々な仕掛け、四季折々のイベント、体験ができる工夫が素晴らしいと感じました。
- ・当日が、休館日で子どもたちが遊ぶ姿が見学できず残念でしたが、逆に、私たち自身が、あぐりドームの遊具を体験できて楽しかったです。
- ・安全面もよく考えてあり、子どもたちが思いっきり遊ぶことができ、保護者も安心して見ていられ、笑顔になれる場所であると感じました。

視 察 報 告 書

令和 7 年 5 月 29 日

鳥取市議会議長 星見 健藏 様

鳥取市議会 公明党市議団
水口 誠

令和 7 年 5 月 19 日から令和 7 年 5 月 21 日まで鳥取市議会 公明党会派視察
(調査)に参加したので、その結果を下記のとおり報告します。

記

所見等：

【ワンヘルスについて】みやま市議会

全国初！ワンヘルス推進宣言都市みやま市の取組について伺いました。

みやま市は 2007 年 1 月に 3 丁合併により誕生したしです。

基幹産業は農業で※・むぎの二毛作を中心にセロリ、みかん、いちご、なす、
トマト、スモモ等野菜・果樹の栽培が盛んようです。

何故、みやま市がワンヘルスに取り組むのか？2016 年「第 2 回世界中医師会
-世界医師会”One Health”に関する国際会議」が北九州市で開催。「福岡宣言」
が採択され、福岡県のワンヘルスの取組が加速。「ワンヘルスの推進」が福岡
県の 4 つの重点に施策の一つに・・・福岡県がワンヘルスの世界的先進地と
なることを目指し、ワンヘルスの実践拠点の整備、世界トップクラスの研究
者が集う国際会議の開催などを推進。2020 年全国初「福岡県ワンヘルス推進
基本条例」が議員提案により可決、翌年施行。環境政策に取り組んでこられ
たみやま市、バイオマスセンターによる資源循環型社会の実現や、太陽光発
電による電力会社の設立、ゼロカーボンシティ宣言など、環境政策に積極的
に取り組んでおられます。2021 年全国初「ワンヘルス推進宣言」を表明し「ワ
ンヘルスのまちみやま」を目指して取り組んでおられます。さらに 2023 年
ワンヘルス総合推進室を設立され、今後 2027 年みやま市に全国初のワンヘ
ルスセンターが整備されるようです。

現在力を入れておられるのが、市内全小中学校でのワンヘルス教育の実践
だそうです。①みやま市小中学校職員研修会の実施 ②教育課程位置づけの
ための調査研究やワンヘルス教育講座の開催・実践 ③2023 年度から市内の
全小中学校において教育カリキュラムにとりくんでおられるそうです。例を
挙げると、ワンヘルス教育の目標として人と動物の健康と環境のかかわりに
ついて感震と理解を深める体験的活動を重視しながら、人（自分）や動物の

健康と活況を守るために働きかける能力を育成するとして教育をすすめておられます。具体的実践例として、第1学年では「生き物と仲良し」人と動物との共生社会づくりのカリキュラムがある。ねらいとして、いろいろな動物との触れ合いを通して、小さな動物の弱さや温かさを実感し、動物の命を守るための接し方や命を大切にしていこうとする心情を学ぶこと。これらの授業を生活科（生き物となかよし）→学校行事（動物園での校外学習）→道徳科（ハムスターの赤ちゃんと触れ合う）といったように一つのくみあわせとして取り組んでおられます。もう一つ実践例として、挙げるならば、第5学年では「いのちをいただく」環境と人と動物のより良き関係づくりのカリキュラムがあります。ねらいとして、食べ物はすべてが「いのち」であり、人はそれを奪っていきっていること、また、食べ物がひとの口に入るまでには多くのひとがかかわっていることを理解することをおして、食べ物を粗末にしないことや「いのち」をいただいているという心情を持つ。これらの授業を社会科（米作りのさかんな地域）→総合的な学習の時間（わくわく米作りプラン）→人権学習・道徳（牛の食べ方）といった組み合わせで取り組んでおられ他にも様々な学年で健康づくりや自然環境を守るという観点から環境保護について、また医薬品の正しい使用と健康などいろんなことを教育を通して学んでおられるようです。良い勉強になりました。

【佐賀駅前周辺整備について】佐賀県佐賀市 佐賀市議会
佐賀駅周辺整備事業についてお話を伺いました。

背景として

- (1) SAGA サンライズパークを起爆剤に R6 年に国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会が行われさらにアリーナの集客力による交流人口の拡大。
- (2) 佐賀駅周辺の人の賀枯れを活かすということで、佐賀駅バスセンターのリニューアル（バスセンター利用者が 1200 万人/年）※H26 年から H31 年では 6.3 倍となっている。また市民参加による事業の推進も行われている。
- (3) 中央通りの再生に向けて、避難路指定に伴う沿道建築物の解体等の進行を進め、道路の再整備を進められている。駅周辺は片側 2 車線の所をあえて片側 1 車線にしてウォークアブルな駅周辺の整備をされている。また駅南には大きな屋根付きイベント広場や、多くの人が利用できるベンチや広い歩道があり歩くライフスタイルの推進がされている。駅北、南には歩行者の利便性を考えスクランブル交差点も整備されていました。駅を中心とし、南北軸を強化され、賑わいの波及効果を生み出すような空間が印象的でした。また駅前交流広場では、いつでもイベントやキッチンカーなどが出店出来る様、利用料金の設定やルールなども決めておられ、「車」中心から「人」が中心の広場へと整備をされていました。
- (4) 駅前から SAGA アリーナにかけてサンライズストリートがありましたが、

その道沿いには「公衆トイレ」がない為、ストリート沿いの各店舗のご協力していただき、「トイレシェアサービス」という取り組みをされておられました。（協力店、6 店舗）SAGA アリーナをご利用される方にはチケット購入時にその周辺のお店でご利用できる割引クーポンを配布して、来客増員を図る取組もされていきました。駅周辺整備については、「人」を中心とした整備をすることで賑わいが生まれるのではないかと、再確認させていただきました。

【あぐりドームについて】長崎県長崎市 長崎市議会（現地視察）

- ・令和 4 年 10 月 28 日に開館 事前予約性 8 時から 18 時 休館日：水曜日
- ・「あぐりドーム」名称の由来について

愛称については、全天候型子ども遊戯施設のイメージにふさわしい物であることや、誰もが覚えやすく、親しみやすいものであることなどを条件に公募により、決定したとのことでした。

- ・「施設のコンセプトや設計理念について」

子育て世帯へのアンケート調査において、「今後、どのような子育て支援が重要か」との問いに対して「子ずれでも出かけやすく、楽しめる場所を増やす」が最も多く、また、「府市区している遊び場」として「雨の日や寒い日でも遊べる屋内の遊び場がほしい」との市民ニーズに応えるという観点から、対象を乳幼児から小学生までが屋内で遊べる場所として、広大な敷地と広い無料の駐車場のある「あぐりの丘」に全天候型子ども遊戯施設を整備することになったとのことでした。

- ・あぐりドームの中にある遊具

- *ヒノキのボールプール（無垢ヒノキで殺菌効果もある）
- *複合遊具（滑り台・ままごとセットキッチンなど）
- *インクルーシブブランコ（落ちないように座った固定できるもの）
- *ふわふわドーム（ドーム型の遊び場、一番人気）
- *ボルタリングウォール（3 歳以上）
- *大型ネット遊具（6 歳以上）
- *クライミングウォール（5 歳以上）
- *おもちゃコーナー
- *絵本コーナー など

- ・年間利用者数 R6 年度は延べ 11 万 4558 人

- ・定員は 1 クール（1 時間半）250 人まで

子どもの人数によっては見守りのスタッフの増員をして対応している。

- ・これまでの事故は遊具での骨折が数回あったそのこと。あぐりドームスタッフが 1 次対応し、場合によっては救護室で対応したり病院の紹介や救急車の手配を行う。その他危機マニュアルに沿って対応しているとのこと。

・あぐりドームではその他工作作り、みそ作り、屋外ではゴーカートや夜には星を観測するなどのイベントもしておられ利用客の増員の取組もしておられました。また、指定管理で地元のテレビ局が施設管理されていることもあり、各メディアへの発信や周知などもされているとのことで強みがあると感じました。また、あぐりの丘の施設内には、あぐりドーム以外にも、キャンプ場やドッグラン施設、バラハウス、花畑、畑エリア（季節によっては収穫体験が出来る）なども併設しており、家族で来ても楽しめるようです。今回は実際にあぐりドームの中を見学させていただきましたが、1時間30分あれば、子どもは十分楽しめる感じの施設でした。鳥取にも「こどもの国」が何となく類似する施設かなと感じましたが、屋内遊戯施設だけを見ると、やはり規模が違いますね・・・。「こどもの国」にもこのような施設があっても楽しいかもしれませんね。

以上

(様式第3号)

政務活動報告書

会派名 (公明党鳥取市議団)

活動事項	行政視察
活動年月日	令和7年10月21日(火)～令和7年10月23日(木)
場所	山形県酒田市、千葉県我孫子市、東京都渋谷区
活動の相手	同上
参加議員名	石田憲太郎、平野真理子、谷口明子、水口誠
目的・内容 ・結果等	<視察項目> ○日本海ヘルスケアネットの取組について(山形県酒田市) ○送迎バスの空席を活用した高齢者等外出応援事業について(千葉県我孫子市) ○メタバースを利用した不登校支援「バーチャルけやき」について(東京都渋谷区) <所見等>・・・別紙
関連する 支出伝票番号	27, 28, 30, 31, 32, 33

(様式2)

別紙

視 察 報 告 書 (委員用)

令和 7 年 11 月 12 日

鳥取市議会議長 星見 健蔵 様

鳥取市議会 公明党市議団

団長 石田憲太郎

⑩

令和 7 年 10 月 21 日から令和 7 年 10 月 23 日まで公明党鳥取市議団の視察（調査）に参加したので、その結果を下記のとおり報告します。

記

所見等：

■山形県 酒田市

1. 日本海ヘルスケアネットの取り組みについて

急激な人口減少の中、病院経営を単独で考える時代は終わり、医療圏域内の医療介護を維持するには各病院で重複する医業、費用を効率化することが必要との院長同士の議論からスタート。2016 年 6 月に設立した病院機構、医師会、福祉法人の 5 法人による協議会の協議を経て、2018 年 4 月県から地域医療連携推進法人の認定を受け設立された。

参加法人（現在は、病院、医師会、歯科医師会、薬剤師会、福祉施設、市からなる計 14 法人で構成）

【主な連携事業】

- 人事交流／派遣体制の整備／職員の共同研修
維持透析機能の重点、集約化
- 急性期機能の集約化
- 地域フォーミュラリ…薬剤の有効性、安全性、経済性を検討し、地域での推奨薬を選定（域内の 47 薬局における 9 薬効群導入の前後で、年間 1 億 4330 万円の薬剤費削減効果あり）
- 訪問看護ステーションの再編・統合（4 拠点から 2 拠点に集中化）
- 看護管理者ネットワーク会議 ●病床調整
- 介護人材の確保、人事交流、介護職の教育体制の共有、交換研修の実施

- 地域での財務連結…外部コンサルタントに委託し、連携推進法人全体の「数値」を「見える化」することで課題を抽出

★紙ベースで行われていた地域の医療連携を、医療情報ネットワークを活用し、地域、医療、介護関係者にシームレスで情報共有できるようにすることで、飛躍的に業務の効率化が可能となった。

【所見】

酒田市では、民間病院、高齢者福祉施設、医師会や薬剤師会の関係性が高齢者にとって比較的良好であるとの説明を伺った。地域全体の医療を将来にわたり持続可能なものとしていくことに対して、危機感と課題の認識を共有し、解決に向けた取り組みを実行されたことは非常に素晴らしいと感じた。また、2022年に酒田市が日本海ヘルスケアネットに加入したことで参加法人と行政の意見交換がしやすくなったと伺った。

今後の地域医療の存続に示唆を与える取り組みと強く感じたが、本市においては各医療関係者の自発的協議が始まることに期待するのか、行政の働きかけが求められるのか調査してみたいと感じた。

■千葉県 我孫子市

1. 送迎バスの空席を活用した高齢者等外出応援事業について

【事業概要】

市内の自動車教習所や病院等で運行している送迎バスの空席を活用し、高齢者や障がい者が気軽に買い物や通院等ができるよう外出応援するので平成17年から実施。

対象者：市内在住で65歳以上の方・障がいをお持ちの方で一人でバスの乗降ができる、または、介助者同伴でバスの乗降に支障のない方。

利用範囲：午前9:00から午後5:00 我孫子市内

利用方法：市が発行する「送迎バス利用パスカード」を運転手に提示

利用状況は、市内高齢者の5%約2,000人が利用

現在7法人18台の車両で運用し全座席数に対して傷害保険をかけている。

【所見】

我孫子市は、東西に細長く面積も小さいことから、目的地に移動しやすい環境と感じた。事業予算は140万円。事業開始から20年経過しているが事業評価は行っていないということではいかがなものかと感じた。

本市の環境下で可能な事業なのかどうか調べてみたいと思う。

■東京都 渋谷区

1. メタバースを利用した不登校支援「バーチャルけやき」について

全国的に不登校児童・生徒が増加している。渋谷区においても、児童・生徒数のうち約 300 人（3%）が不登校という実態である。渋谷区はこれまで教育相談センターに相談指導教室として「けやき教室」を開設し不登校支援を行ってきた。令和元年度の GIGA スクール構想により、コンピュータ端末を使った教育の情報化が確立されたことで、令和 4 年、東京都教育委員会において、不登校の児童・生徒に対し、バーチャル空間上に子供たちの居場所・学びの場の提供を企画し、当該空間で本人の分身であるアバターを使ってコミュニケーションや学習ができるプラットフォームを提供開始した。渋谷区では都のプラットフォームを利用して令和 5 年「バーチャルけやき」として運用開始。

利用人数（アカウントの配布数）

児童生徒…140 アカウント 職員…80 アカウント

開設日時 平日 8:00～18:00 東京都の支援員が対応

10:00～15:00 バーチャルけやき

※9:00～17:00 心理士対応が可能（4 名交代制）

運用方法

- ・ 不登校傾向にある児童生徒に SSW からアカウントを配布
- ・ 都の支援員、けやき教室支援員、心理士、SSSW、指導主事、事務員、東大先端研が相談見守りを実施
- ・ 生徒対象のプログラム、ドリル、プログラミングによる学びの場を提供
- ・ 都のオンライン支援員によるバーチャル空間上の安全確保

「バーチャルけやき」上で様々な人とのかかわりを持つことができるようになったり、中にはコミュニケーションを通じてリアルのけやき教室に興味を持ち通所に至った児童がいるなどの効果が見られた

都のプラットフォームを利用した「バーチャルけやき」は、都の支援は 3 年間で本年が終了年となっていることから、都へ継続の要望をしている。年間の運用経費は、2,300 万円、オンライン支援員 800 万円と説明を受けたが、本市で運用をしようとした場合、費用対効果の面、予算確保面においてなかなか実施困難な事業だと率直に感じた。

視 察 報 告 書

令和 7 年 11 月 25 日

鳥取市議会 議長 星見健蔵 様

市議会公明党

平野 真理子

令和 7 年 10 月 21 日から令和 7 年 10 月 23 日まで鳥取市議会公明党市議団の行政視察に参加したので、その結果を下記のとおり報告します。

記

所見等：

日本海ヘルスケアネットの取り組みについて（地域医療連携推進法人 日本海ヘルスケアネット）

＜山形県庄内地方の庄内二次医療圏の概要＞

人口 263,404 人 （酒田市 100,273 人、遊佐町 13,032 人、三川町 7,601 人、庄内町 7,601 人、鶴岡市 122,347 人） 面積 2,405 km² （神奈川県と同じ） 高齢化率 36.0%

＜現状＞

- ・2018 年 4 月に民間病院や高齢者施設を運営する法人、地元医師会、薬剤師会などの 9 法人でスタート。現在 14 法人となっている。参加法人が増えた経緯は、過疎化や少子高齢化が進展する中で、医療と介護の更なる連携の強化及び人事交流のニーズが高まってきてことが背景にある。また、酒田市の加入前は、行政と参加法人の間に一定の距離感があったが、酒田市が日本海ヘルスケアネットに参画し身近になったことで、お互いに意見交換がしやすくなった。
- ・日本海総合病院から他病院や高齢者施設に看護師の人事交流について「在籍型出向」で、出向元と出向先で契約を結び、出向元の身分と職を維持しながら出向先との雇用契約に入る。
- ・参加法人のトップが直接顔を合わせて「地域の未来図」を共有し、連携や機能分担について本音で話し合う場ができた点、各法人の様々な職種間で連携が進み、建設的に提案により業務効率化に繋がっている。

・経営状況は 2023 年度：352 億 800 万円（25.6%増）。日本海総合病院の令和 6 年度の決算状況は、最終利益 4 億 5 千 700 万円の黒字ではあるが経営状況は年々厳しくなっている。

「地域医療連携推進法人制度」にはデメリットとして、事務的負担、連携法人に付与されるインセンティブがない等のアンケート結果があるが、日本海ヘルスケアネットに参画することでお互いに顔の見える関係ができ、情報共有や意見交換の活発化を通して連携が進み、業務の効

率化が図られている。

＜感想＞

人口減少、公立病院の赤字経営に艱難を抱える本市として参考になることを学ぶため視察をさせて頂いた。理事長から丁寧な説明を受けさせていただき、とても貴重な機会を頂くことができた。特に、病院が市内を移動するバスを持っていて患者さんの移動のしやすさ、特に病院に行くための利便性が高く、これだけでも本市でできれば市民サービスになると思った。今後も公立病院は勿論、市内の病院連携が来ることを願っている。

送迎バスの空席を活用した高齢者等外出応援事業について（我孫子市役所）

＜我孫子市の概要＞

・我孫子市は千葉県の北西部、北は利根川、南は都心から一番近い天然湖沼「手賀沼」にはさまれており、東京都内から約 30 キロメートル圏に位置している。平成 27 年 3 月に JR 上野東京ラインが開業し、我孫子 - 東京間は最速 38 分で結ばれている。首都圏へ通勤する人々の住宅地としての役割が大きくなっている。

・昭和 30 年我孫子町、布佐町、湖北村が合併して我孫子町となり、昭和 45 年 7 月に市制をした。

＜事業の概要＞

・市内の自動車教習所や病院等で運行している送迎バスの空席を活用し、高齢者や障がい者が気軽に買い物や通院等ができるよう外出を応援する。

・利用対象者は市内在住の 65 歳以上の方・障害のあり 1 人でバスの乗降ができ、介助者同伴でバスの乗降に支障のない方。

・利用範囲は午前 9 時から午後 5 時で我孫子市内。

・利用方法は市が発行する「送迎バス利用パスカード」をバスの運転手に提示し、乗車する。

＜説明＞

・現在、高齢者の 5%、2000 人が利用している。病院用が多くマイクロバスを使っている。

・この事業に協力する事業者と協定を結び、仮に利用者により事業者に支障がある場合は利用を拒否できるとしている。

・令和 6 年度の事業費の決算は 1,282 千円であった。

＜感想＞

我孫子市の高齢者及び障がい者に外出の機会を確保し、事業者にも負担なく協力していただくことができる範囲で行っている。市の地形や、公共交通の在り方の中で、住民が生活の移動がしやすい取り組みだと感銘した。利用者のマナーや公共交通事業者への影響も考えながらとても重要な取組をされており、公共交通の課題を考える上で参考になった。

メタバースを利用した不登校支援「バーチャルけやき」について（渋谷区役所）

＜東京都＞

公立学校における日本語指導が必要な児童生徒、不登校相談・指導を受けてない児童生徒が約 1 万人弱いる。そこに、オンラインを活用して都内公立小・中学校や地教委を支援していると

ころの説明を受けた。

- ・都がオンライン上の仮想空間（バーチャル・ラーニング・プラットフォーム）を構築し、居場所・学びの場を自治体に提供している。

<渋谷区>

- ・不登校や日本語指導が必要な児童・生徒に対し、オンライン上の仮想空間を活用した新たな居場所や学びの場を提供している。

- ・バーチャルけやきの入室をもって、出席扱いとはしていない。バーチャルけやき内の学習ソフトを活用するなどして、学習活動を学校が確認した場合、自宅オンライン学習として学校長の判断で認定する。

- ・メタバース空間には、アバターを選択し（好きな名前をつける）、学習コンテンツ・自習スペース、相談スペース、グループワークスペース、掲示スペース、けやき教室配信エリアがあり、渋谷区では3つのワークスペースを使用している。

- ・運用については配付アカウント数の児童・生徒には140アカウントの内現在半分くらい使用している。職員は80アカウント。8:00~17:00の間をそれぞれたいおうしている。

- ・各校でバーチャルにつなげたい児童・生徒にSSWから配付しているからよけいな手続きがいらない。

<不登校支援の考え方>

- ・子ども同士の偶発的なコミュニケーションの場
- ・誰とも会わない生活から社会への第一歩
- ・リアルけやき教室に行ってみようかなと思えるきっかけ
- ・外に出られないけど誰かに相談できる場
- ・安心して利用できるオンラインの居場所

その他、リアルとバーチャルをつなぐそうだんルームがあった。

<感想>

- ・センターにも学校にもけやきにも行けない子どもたちの心のよりどころになっているので、件数は少ないが、確実に支援につながっていた。

- ・優しい会話に触れられ、自分を大切にしてくれる場は心を癒すと思った。

- ・バーチャルに成果が見えにくいのは自然なことであり、即結果を求めることはできない。

- ・何にも繋がっていない不登校じどう・生徒へのひとつの支援として提示しやすいことや費用と人材不足が課題とのことだった。

- ・この事業は今年度で終わるとのこと。一人を大切に支援につなげる取り組みの一つとして学ばせて頂くことができた。

視 察 報 告 書（委員用）

令和 7 年 10 月 27 日

鳥取市議会議長 星見 健蔵 様

鳥取市議会公明党市議団

谷口 明子

令和 7 年 10 月 21 日から令和 7 年 10 月 23 日まで鳥取市議会公明党市議団の視察（調査）に参加したので、その結果を下記のとおり報告します。

記

所見等：

《地方独立行政法人 山形県・酒田市病院機構 日本海ヘルスケアネット》

日本海ヘルスケアネットの取り組みについて

- ・理事長自ら説明された他、担当職員の方々がとても丁寧に説明、対応され、素晴らしいと感じました。
- ・取り組みの素晴らしさは、日頃からの情報共有、人間関係の良さから、好循環が生まれているのだと感じました。
- ・現在、今後の医療、介護現場の課題に対しての解決方途が見出されるように思いました。ただそのための根底には、より高い次元での使命感、寛容さが無ければならないと感じました。
- ・中山間地域を多く抱える本市において、医療・介護の課題解決のために、医療 MaaS がとても興味深く、取り組めたらと思いました。そのための仕組みづくりを、国、県に要望し（「ID-Link」「Team」など）、連携していかなくてはと思いました。

《千葉県我孫子市》

送迎バスを活用した高齢者等外出応援事業について

- ・鳥取の事をよく調べておられ感心しました。
- ・平成 17 年からの事業で、開始当時の担当職員が退職されており、開始時の状況が不明な点が多いとの事でしたが、協力事業者の説得には、くろうされたのではないかと感じました。
- ・行政からの支援は一切ないところでのこの事業で、協力依頼のみで成り立っていると聞きし、平成 17 年から継続されてきたのには、苦情などその都度、丁寧な対応をされてきたことに感銘を受けました。
- ・本市で同様なことができるのか、地形、人口密度、事業者の関係で難しいかと感じましたが、模索してみたいと思いました。

視 察 報 告 書

令和 7 年 11 月 6 日

鳥取市議会議長 星見 健藏 様

鳥取市議会 公明党市議団
水口 誠

令和 7 年 10 月 21 日から令和 7 年 10 月 23 日まで鳥取市議会 公明党会派視察
(調査)に参加したので、その結果を下記のとおり報告します。

記

【日本海ヘルスケアネットについて】 山形県酒田市

1. 人事交流による技術・連携レベルの向上

- 地域の病院や施設間で積極的な人事交流を実施している。これにより、各施設のスタッフ間の顔の見える関係が構築され、緊急時や日常業務での連携がスムーズになっています。
- 交流を通じて、中核病院の専門的な知識や技術が地域の小規模施設にも普及し、地域全体の医療レベルの底上げが図られています。この人事交流が「技術のレベルアップ」に繋がっている。

2. 多職種・共同研修会の実施

- 医師、看護師、薬剤師、リハビリテーション専門職など、多職種が参加する共同研修会を定期的に開催している。
- 感染対策や誤嚥性肺炎予防など、地域全体で共通して取り組むべきテーマについて、統一された知識や手法が共有されています。これにより、どの施設にかかっても一定水準以上のケアを受けられる体制づくりが進んでいる。

3. 地域包括ケアシステムのモデル構築

- 国が推進する「地域包括ケアシステム」のモデルケースとして、具体的な事業を展開している。

- 具体的な取り組みとして

○役割分担の明確化: 各参加法人がそれぞれの機能(急性期、回復期、慢性期、介護など)に応じて役割を分担し、患者が地域内で切れ目なく必要なサービスを受けられる体制を構築しています。

○地域フォーミュラリ(医薬品の標準化)の推進: 地域全体で利用する医薬品の標準化を進めることで、薬物治療の質の向上と医療費の適正化を同時に実現しようと取り組んでおられる。

4. 効率的な医療資源の活用

- 日本海総合病院という中核病院を中心に、高額な医療機器や設備、専門人材などを効率的に活用する仕組みが構築されている。
- ドクターヘリの運用体制の構築などにより、救急医療への迅速な対応が可能となり、地域住民の安心感に繋がっている。

【送迎バス事業について】 我孫子市議会

1. 事業の概要と特徴

- 病院、自動車教習所、大学、市の福祉施設などが運行する既存の送迎バスの空席を、高齢者や障害者の外出支援のために活用している点。
- 高齢者などの外出を支援し、社会参加を促進すること。コミュニティバス(あびバス)とは異なり、交通空白地域の解消を主目的とはしていない点。
- 主に 65 歳以上の高齢者や障害者で、一人で乗り降りが可能な人に限定されている点。
- 利用者は無料で利用でき、市や利用者の費用負担が少ない仕組みである点。

2. 運営方法と仕組み

- 市内の複数の民間事業者（病院、教習所など）や市の施設が協力して運行している。
- 市が事業者と利用者の間に入り、利用者の募集、パスカードの手続き、苦情対応を一元的に担うことで、事業者の負担を最小限に抑えている。
- 新たな車両購入やルート設定が不要なため、通常のコミュニティバスよりも導入コストや手続きが少なく、短期間でサービスを開始できる点。※車両のメンテナンスや燃料代がかからない。

3. 効果と評価

- 「買い物の荷物を持たなくてよかった」など、外出時の足として貴重な役割を果たし、利用者から好評を得ている点。
- 利用者数が着実に増加しており、地域の高齢者福祉に貢献している点。
- あびバス（コミュニティバス）を主軸としつつ、この送迎バス事業を補助的な外出支援手段として位置づけるという、複数の交通施策を組み合わせたアプローチが取られている点。

4. 課題と今後について

- 利用者が 65 歳以上や障がい者で、自力で乗り降りできる人に限定されるため、より介助が必要な人への対応が今後の課題。
- 事業の周知が重要であり、より多くの利用者に広がるような広報活動が必要。
- 今後、新たな事業者への働きかけや、近隣市町村からの送迎を行う事業者との連携など、さらなる利便性向上に向けた工夫が検討されている。

【「バーチャルけやき」メタバースを活用した不登校支援について】

渋谷区

1. 視察の目的

不登校児童生徒が増加傾向にある中、東京都渋谷区（事業主体の一つ）が展開するメタバースを活用した先進的な支援策「バーチャルけやき」を視察し、その運営実態、教育的効果、課題等を調査する。本自治体における多様な教育機会提供のための新たな選択肢導入の可能性を検討する資とする。

2. 「バーチャルけやき」の取り組み概要

東京都教育委員会が構築した VLP（バーチャル・ラーニング・プラットフォーム）を活用し、渋谷区などが連携して運営する不登校支援のための仮想空間上の居場所・学びの場である。

- 対象者: 主に東京都内在住の不登校の小・中学校の児童生徒
- 主な機能として
 - 交流スペース: アバターを通じて他の児童生徒や支援員とチャットや音声で交流する。
 - 学習スペース: オンライン学習教材（「デキタス」など）を利用した個別学習や、ビデオ会議ツールを利用した一斉学習に参加する。
 - 相談スペース: 臨床心理士等の専門家によるカウンセリングをアバター形式で受ける。
- 運営体制: オンライン支援員が常駐し、空間内での孤立を防ぎ、子どもたちに積極的に関わる体制を構築。

3. 視察で感じたこと

(1) 「新たな居場所」としての有効性

- 児童生徒は自身のアバター（分身）を操作して参加するため、対面よりも心理的な抵抗感が少なく、気軽にアクセスできることが確認できた。学校の教室とは異なる「安心・安全な場」として機能している。
- 不登校の子どもたちは社会との接点が少なくなりがちだが、この空間を通じて他の子どもたちや大人と交流する機会が創出されている。チャットやスタンプ機能な

ども活用され、コミュニケーションが苦手な子どもでも参加しやすい工夫がされている。

(2) 学習支援と個別最適な学び

- 従来の集団授業形式だけでなく、子どもの興味や学習進度に応じた個別の学習支援が可能となっている。オンライン教材を活用することで、自分のペースで学習に取り組める環境が整っていた。
- 参加した児童生徒からは「自分のペースでできるのが良い」「分からないところを気軽に質問できる」といった肯定的な意見が多く、学習意欲の維持・向上に繋がっているようです。

(3) 運営上の工夫と課題

- 空間内でのトラブル防止のため、事前のルール説明や支援員による継続的な「見守り・声かけ」が徹底されている。※トラブルはまったくないわけではない。
- メタバース空間内での活動だけでなく、リアル(現実)世界でのイベントやサポートとの連携が重要であるという認識が共有された。オンラインでの関わりが、将来的な登校や社会参加への足がかりとなることを目指している。
- 保護者への認知度向上、参加を促すための効果的な広報方法が今後の課題として挙げられた。

4. 今後の展望

- 不登校支援において「多様な選択肢」を提供することの重要性を再認識した。メタバースを活用した支援は、物理的な制約を取り払い、地理的条件に関わらず支援を届ける有効な手段だと思う。
- 本市においても、教育支援センター等と連携したメタバース空間の導入を前向きに検討すべきである。特に、初期段階では東京都の VLP のような既存プラットフォームを活用することで、コストを抑えつつ迅速な導入が出来るのではないかと考えます。